



りんどう「こぶ症」の原因がほ場畦畔に存在する可能性

りんどう「こぶ症」多発ほ場の畦畔にりんどうのセル苗を定植したところ、翌年には数株が「こぶ症」を発症しました。

翌々年の春、畦畔に残っていたすべての株を掘り上げて農研センターに持ち帰り、専用培土を詰めたコンテナに移植して栽培したところ、すべての株が発症しました。

これらから、りんどう「こぶ症」発生ほ場の畦畔には、何らかの「こぶ症」原因が存在する可能性が示唆されました。

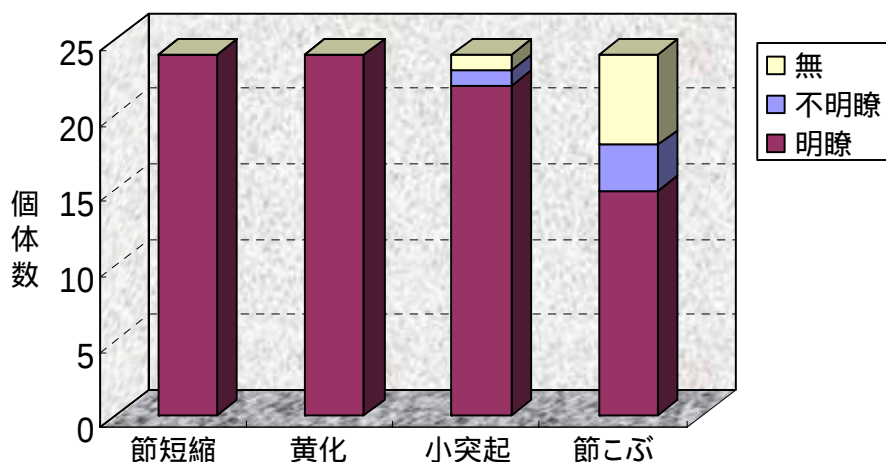


図1 「こぶ症」に特異的な4つの症状を発現した個体数(H18.8.10)



図2 「こぶ症」を発症した株(H17.6.9)



図3 専用培土を用いたコンテナ栽培で発症した株(H18.8.10)

平成16年7月14日、松尾村(現八幡平市)の「こぶ症」多発ほ場の畦畔にセル苗を定植。品種:ジョバンニ、株数:45株。

平成17年6月9日、数株に「こぶ症」に特異的な症状である茎葉黄化・節間短縮の症状を確認。

平成18年4月26日、畦畔に残っていた24株すべてを掘り上げて持ち帰り、りんどう専用培土を詰めたコンテナへ移植。